

友達との豊かな関わり合いを通して、跳び箱を使った運動遊びの楽しさやできる喜びを味わいながら、夢中になって学習する愛顔あふれる子どもを育てる

愛媛県新居浜市立惣開小学校 望月 幸二

## 1 テーマ設定の理由

本市では、子どもの体力低下が問題視されている。その背景として、運動を日常的にする子どもはわずかであり、ほとんどしない子どもが多くいるという偏った二極化問題が浮かび上がる。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、仲間と活動する機会が減少した生活が数年間続いたことも子どもの体力低下に拍車を掛けている。特に、高学年の子どもには、運動への恐怖感や自信のなさという情意面での問題や、基礎的な技能が習得できていないという技能面での問題が多く見られる。これらは、低学年の時期に、運動の成功体験が少ないことや運動経験に偏りがあることが原因であると考えられる。

そこで、本市では低学年の時期に様々な運動経験を培い、運動の基礎感覚・基礎技能を身に付けることが重要だと考え、「器械・器具を使つての運動遊び」の領域で研究を行うことにした。器械・器具を使った運動は日常生活ではあまり経験することができないため、体育科の学習において基礎となる運動感覚を身に付けさせることが重要である。本研究では、「跳び箱を使った運動遊び」を中心に研究を進めてきた。跳び箱は高さや向き、つなぎ方を自由に変えることができるため、子どもたちが場づくりを主体的に行い、様々な動きを試しながら取り組むことができる。このような跳び箱の特性を生かした運動遊びにおいて、教師が運動遊びとの多様な関わり方を意味付け・価値付けることで、他の運動遊びや中学年からの運動にも前向きに挑戦しようとする意欲の醸成につなげたい。以上のことから、「友達との豊かな関わり合いを通して、跳び箱を使った運動遊びの楽しさやできる喜びを味わいながら、夢中になって学習する愛顔あふれる子ども」を育てたいと考え、本研究テーマを設定した。

## 2 研究の視点

### (1) 教材とつながる

「する・みる・支える・知る」場面を設定し、教材や単元構想の工夫を行えば、夢中になって運動遊びをする愛顔あふれる子どもが育つだろう。

### (2) 仲間とつながる

友達と豊かに関わり合いながら、協働的に活動する場の工夫を行えば、運動遊びの楽しさやできる喜びを味わいながら、夢中になって運動遊びをする愛顔あふれる子どもが育つだろう。

### (3) 自分とつながる

友達と互いの成長やよい点を伝え合うことができる学習活動や運動の日常化につながる手立ての工夫をすることで、自らの学びに充実感を得て、夢中になって運動遊びをする愛顔あふれる子どもが育つだろう。

### 3 研究の実際

#### (1) 教材とつながる

##### ア 「する・みる・支える・知る」の視点から運動を多様に楽しむことができる単元構想の工夫

単元を構成するにあたり、子どもたちが主体的に運動遊びを楽しめるようにした(資料1)。まずは、感覚づくりの運動を毎時間取り入れ、基礎的な感覚づくりを行った。その上で、自分たちでつくった場で運動遊びに取り組んだり、その場を更によくするために話し合ったり、他のグループの場で楽しんだりする学習の流れを子どもたちと共有したことで、より主体的に学習を進める姿が見られた。さらに、子どもに「する・みる・支える・知る」の視点をもたせら

時	1	2	3	4	5	6
指導内容	準備運動	準備運動 めあての確認				
	めあての確認	感覚づくりの運動 【動物の動きを真似た基礎的な感覚づくりを行う】				
	オリエンテーション (用具の準備の仕方、体ほぐし、約束の確認)	跳び箱を使った簡単な運動遊び	【自分たちでつくった場で活動を楽しむ】			発表会 【自分たちのつくった場で発表する】
	感覚づくりの運動					【他のグループがつくった場で活動を楽しむ】
振り返り						

(資料1) 単元構想図

れるよう、どの活動の中でも教師が運動遊びとの多様な関わり方を意味付け・価値付ける意識を常にもっておくことで、運動遊びを多様に楽しむことができるようにした。本単元において、「する」は運動遊びに取り組む子ども、「みる」は、それを見て自分の動きに取り入れている子ども、「支える」は、愛顔で運動遊びに取り組むことができるように応援をしたり、安全に活動できるように場を整えたり、誉め言葉を伝えたり、運動遊びに取り組む友達の動きをタブレット端末で撮影したりする子ども、「知る」は、教師や友達の動きを見て跳び箱遊びの様々な動きを知ったり、他のグループがつくった場を見て新たな発見をしたりする子どもなどの姿と捉えて実践を進めた。主体的な活動の中で、子どもたちは学習が進むにつれてどの視点の関わり方も楽しいことに気付き、最後まで意欲的に跳び箱を使った運動遊びに取り組むことができた。

#### (2) 仲間とつながる

##### ア 友達と協働的に課題を解決する場の工夫

本単元の活動【自分たちでつくった場で活動を楽しむ】では、グループで互いに話し合っ場をつくるようにした(資料2)。その際、「場づくりの約束」として、必ず使うものと使ってもよいものを指定し、その中の器具を組み合わせ、一つの場をつくるようにした。子どもたちは、「跳び箱を階段みたいにしよう。」「跳び箱からジャンプした後に前転をしよう。」など、自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞き入れたりしながら、場を完成させていった。また、実際に運動遊



(資料2) 話し合っ場

びを行っている最中でも、話し合いをして場を改善してもよいと伝えていたことで、子どもたちは、より自分たちに合っ、よりみんなが楽しめる活動の場にしよう、自然と話し合いを始める姿が見られた。単元終末に自分たちがつくった場での遊び方を発表し合っ後、【他のグループがつくった場で活動を楽しむ】時間に、他のグループがつくった場で活動できる時間を設けた。子どもたちは他のグループの工夫を知り、愛顔で運動遊びに取り組むことができた。

## イ 友達との豊かな関わり合いを活性化する学習活動の工夫

友達との関わり合いを活性化させるために、「ほめほめシャワー」を作成した(資料3)。グループで運動遊びを行う中で、友達に言われてうれしかった誉め言葉や励ましの言葉を自由に記入できるようにした。自分たちの言葉が可視化されることで、子どもの誉め言葉への興味が高まり、単元が進むにつれて、多様な誉め言葉や励ましの言葉が蓄積されていった。また、振り返りで友達のよいところを伝える際にも、「ほめほめシャワー」を参考する子どもが見られ、「馬跳びが上手だね。」「手を使うのがうまいね。」など、より具体的な言葉掛けをする子どもが増えていった。それにより、友達と温かい雰囲気をつくりながら活動に取り組むことができ、愛顔で活動することにつながったと考える。



(資料3) ほめほめシャワー

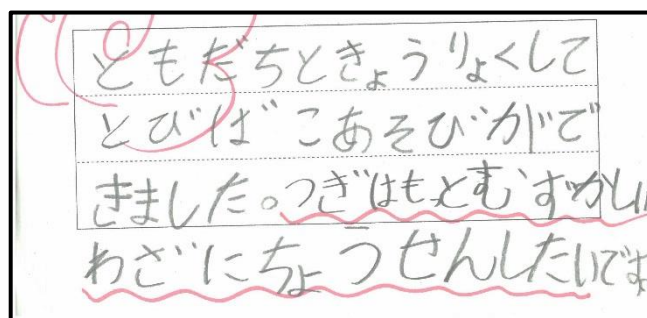
### (3) 自分とつながる

#### ア 友達と互いの成長やよい点を伝え合うことができる学習活動の工夫

毎時間の終末に行う振り返りでは、全体で振り返りを行う前に、共に活動したグループの友達と互いの成長やよい点を伝え合う場を設けた。友達から成長を認められたり、誉め言葉を言われたりすることで、一人一人が学びの成果や自己の成長を実感することができた。また、全体での振り返りを行う際には、本時でできるようになったことだけではなく、どのような運動遊びの楽しさを感じられたかを問い掛けることで、「跳び箱遊びをするだけではなく、友達の動きを見て挑戦したことで、自分も友達も一緒に成長できたと思う。」「〇〇さんの遊び方を見ると、とても楽しそうだった。そして、見ている自分も楽しかった。」という発言があり、子どもたちは多様な視点で運動遊びの楽しさを味わい、毎時間の学びに充実感を得たと考えられる。

#### イ 運動の日常化につながる手立ての工夫

子ども自らが学習の目標や締めくくりを「つくる」ことができるように、毎時間の終末には、全体で振り返りを行った。振り返りでは、「友達と協力して跳び箱遊びができた。次はもっと難しい技に挑戦したい。」「今度はいろいろな技をしてみたい。1週間後にはもう少しうまくなりたい。」などの記述が見られ、次の学習を自然と求めていこうとする姿が見られた(資料4)。



(資料4) 子どものワークシート

また、第4時の学習のまとめの際に、単元の終末に取り組みたいことを子どもに尋ねたところ、「他の全てのグループの場をつなげて遊びたい。」「発表会をして自分たちのつくった場での遊び方を友達に紹介したい。」という発言があり、子どもの思いを汲み取って第6時の授業を展開した。それにより、子どもたちは単元の締めくくりを自分たちで「つくる」ことができ、自分たちの学びに自信をもつことができたと言える。これらの経験が、体育科の他の単元にも夢中になって愛顔で学習したり、休み時間に友達と元気よく体を動かしたりする子どもたちの姿につながったと考えられる。

## 4 研究の成果と課題

### (1) 教材とつながる

#### ア 成果

- 子どもが主体的に活動できるように「する・みる・支える・知る」場を設定した単元構想にしたことで、どの子どもも運動を多様に楽しむことができ、最後まで愛顔で意欲的に取り組む子どもが多く見られ、跳び箱を使った運動遊びの楽しさを味わうことができた。
- 子どもが活動したい場を自ら考えるようにしたことで、みんなが夢中になって愛顔で場づくりや運動遊びに取り組むことができた。また、子どもは自分の運動能力に応じた課題にスモールステップで取り組んだことで、より多様な運動遊びを自ら選択し、できる喜びを味わいながら愛顔で運動遊びに取り組むことができた。

#### イ 課題

- 子どもに意欲的な活動をさせるために、場づくりや活動内容をできる限り制限せずに行ったことで、安全面の指導をする時間を十分確保することができなかった。

### (2) 仲間とつながる

#### ア 成果

- グループで場づくりを行うことで、子どもたちは自分たちに合った楽しい活動の場をつくらうという思いをもち、自然と対話する姿が見られ、豊かな関わり合いが見られた。
- 誉め言葉を掲示することで、多様な誉め言葉があることに気付き、言葉掛けへの意識が高まるとともに、より友達の動きに注目する姿が多く見られた。

#### イ 課題

- 班によっては、場づくりでの話合いがまとまるまでに時間が掛かり、活動時間に多少の差が生じた。場づくりを考えるときに、具体的な場の例などのヒントを与える必要がある。

### (3) 自分とつながる

#### ア 成果

- 子ども自らが学習の目標や締めくくりを「つくる」ことで、子ども一人一人が学びの成果や自己の成長を実感することができた。また、体育科の他の単元にも夢中になって愛顔で学習したり、休み時間に友達と元気よく体を動かしたりする子どもたちの姿につながった。

#### イ 課題

- 友達のよい点を伝え合う際に、ワークシートに記述してからでないと具体的な誉め言葉が出にくいため、振り返りの時間を十分に設けたり、年間を通じて伝え合う活動を効果的に取り入れたりする必要がある。

### 〈参考文献〉

「跳び箱指導のすべて」三好真史（東洋館出版社）

「マット 鉄棒 跳び箱 指導の教科書」三好真史（学陽書房）

『『体育』の基本』白旗和也（東洋館出版社）

「楽しい体育の授業」（明治図書）

「体育授業を観察評価する—授業改善のためのオーセンティック・アセスメント—」

高橋健夫（明和出版）